

## 第2回 須走小・中学校一貫校化に向けた地域説明会

日 時 令和8年3月6日(金)

場 所 須走小学校 体育館

### 次 第

(進行:学校教育課長)

#### 1 開会

#### 2 教育長あいさつ ～小中一貫校化による教育行政の方向性について～

#### 3 諸説明

##### (1) 小中一貫教育の制度と効果についての再整理

##### (2) 一貫校化に向けてのここまでの動き

- 総務部会
- 学校運営部会
- PTA 部会
- 施設関係部会

#### 4 質疑応答

#### 5 閉会

令和8年3月6日

# 須走中学校区地区説明会資料

## 小中一貫校化による 教育行政の方向性について

小山町教育委員会

# 小山町の学校改革①

<基本方針・目的>

経済格差のない教育

地方格差のない教育



東京に負けない（広）

歩いて、行ける（狭）

内容面

環境面

# 小山町の学校改革②

## 主体的な改革の推進

- ⇒ 児童・生徒による
- ⇒ 教職員による
- ⇒ 地域による

# 小山町の学校改革③

**時代のニーズに応える教育  
必要となる『生きる力』は何か？**

**地域特性を活かした学び  
学校規模を活かした学び**



**よさを生かした小山の教育の推進**

# 小山町の学校改革は

学校の**統廃合**を進める  
ものではありません



**いまある学校の存続**を  
基本としています

# なぜ、いま学校改革か？

平成27年度(2015) **10年前**

小山中・・・214人

北郷中・・・158人

**須走中・・・110人**

令和7年度(2025) **現在**

小山中・・・149人 (▼30.4%)

北郷中・・・158人 (±0%)

**須走中・・・101人 (▼8.2%)**

# 中学校区別生徒数比較

令和7年度(2025) **現在**

小山中・・・149人

北郷中・・・158人

**須走中・・・101人**

概ね、**10年後予測**

小山中・・・86人

北郷中・・・98人 ※現在の1歳児から

**須走中・・・68人** 3歳児の人口計

※ 須走地区は転入生ありか？

# 小学校区別児童数比較

## 7年後（正確な予測が可能な年数）

令和7年度(2025)

成美小・・・132人

明倫小・・・115人

足柄小・・・76人

北郷小・・・342人

須走小・・・162人

令和14年度(2032)予定

成美小・・・84人(14)

明倫小・・・53人(9)

足柄小・・・37人(6)

北郷小・・・228人(38)

須走小・・・134人(22)

\* カッコ内の人数・・・1学年あたりの予測人数

でも、**学校**は残したい…



なぜ、**学校**を残したいのか



**学校**が残れば、**地域**が残る

※ **国交省の考察**

2014年に発表された消滅可能性都市に関する考察では、学校のある地域は、集落が残りやすい。

# 学校があることの意義

**教員人数：国の基準配当数**

## 中学校の先生の数

**A 市**

**21人**

**人口 18000人**

**(1校)**

**小山町**

**37人**

**人口 16860人**

**(3校)**

**\* ( )内は、中学校の数**

## <身近な実例>

# 山梨県南都留郡忍野村

人口：（2025年）9220人  
（2015年）8968人

## 過去10年で252人の増加

1980年は、6077人・・・45年前よりも、**ほぼ1.5倍増**

**忍野村教育長**

**「下げ止まり現象です」**

**「山梨県唯一の自立持続可能性自治体です」**

# なぜ忍野村は、山梨県唯一の「自立持続可能性自治体」なのか？

- 富士山観光圏としての安定した雇用
- 山梨県内では、高い出生率
- 富士吉田市などの近隣市町とのアクセス
- 外国人居住者の増加 など



流出を抑え、若年世代の定住を目指す  
より良い子育て環境・教育環境の構築

# 忍野村

(面積) 約 2 5 k m<sup>2</sup>

(人口) 9 2 2 0 人

# 小山町

(面積) 約 1 3 5 k m<sup>2</sup>

(人口) 1 6 8 0 0 人

# 忍野村

(面積) 約 25 km<sup>2</sup>

(人口) 9220人

# 小山町須走中校区

(面積) 42 km<sup>2</sup>

(人口) 3663人

小・中学校を残して

中身の詰まった

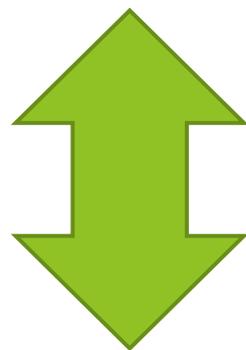
魅力ある地域を目指したい



自立できる地域づくり

これからの時代は、**改めて**…

**地域が**創る学校であり



**地域を**造る学校である

# 現 中学校区の成り立ち

## 小山中校区

(1912年・大正元年) 小山町

(1955年・昭和30年) 足柄村編入

## 北郷中校区

(1956年・昭和31年) 北郷村⇒小山町

## 須走中校区

(1956年・昭和31年) 須走村⇒小山町

※ 3 中学校区制を守りたい

**現 3 中学校区単位、**  
**それぞれの地域の**  
**発展が、小山町全**  
**体の発展につながる**

# 小中一貫校化のために

**学校運営協議会**の充実



地域の声を吸い上げて、  
学校づくりにつなげる役割

## < 須走小中一貫校化の歩み >

# 須走小中一貫校設立検討会議

## 付属する専門部会

- 総務部会・・・開校準備／校名決定／渉外など
- 学校運営部会・・・制服／教育課程／特色
- PTA部会・・・PTA規約／地域行事関連など
- 施設関係部会・・・施設改築全般

# 小山町の3中学校区の 存続・発展



**小山町全体の活性化**  
**少子化に歯止めをかける**

# 小山町における ウェルビーイングの創出



# 小中一貫教育の制度と 効果についての再整理

令和8年3月6日

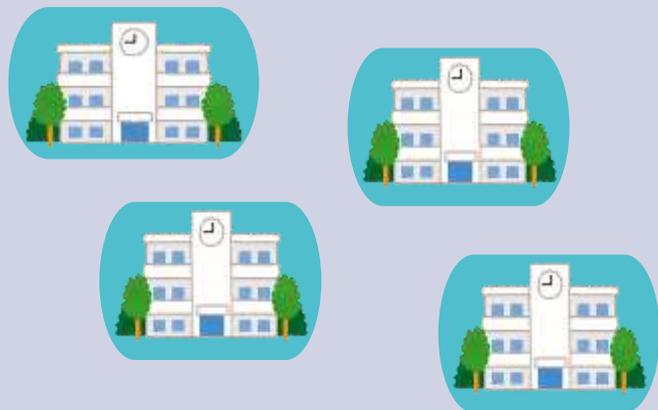
第2回須走小中学校一貫校化地域説明会

# 小中連携教育と小中一貫教育

	類型	要件
小中一貫教育	義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程（教育の中身と流れを示した計画）を編成</li> <li>▶ 小・中学校の組織が一体化している</li> </ul>
	小中一貫型 小学校・中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成</li> <li>▶ 小・中学校は組織上独立している</li> <li>▶ 併設型：設置者(自治体等)が同一</li> <li>連携型：設置者(自治体等)が異なる</li> </ul>
小中連携教育	これまでも進めていた	継続性や地域全体への波及力に課題

# 施設の設置パターン

## 分離型



敷地が離れている

小山中学校区  
北郷中学校区  
※使う校舎は  
今と同じ

## 隣接型

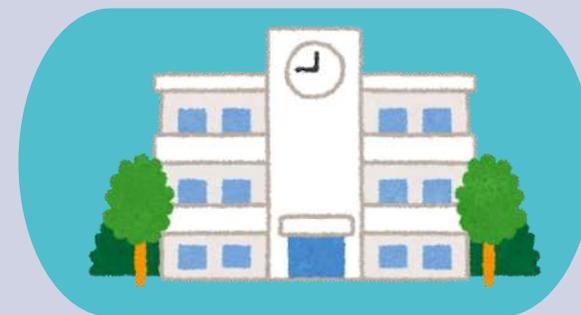


敷地が隣接している



同じ敷地だが、  
校舎が離れている

## 一体型



同じ敷地で、  
校舎が一体化している

**須走中学校区**

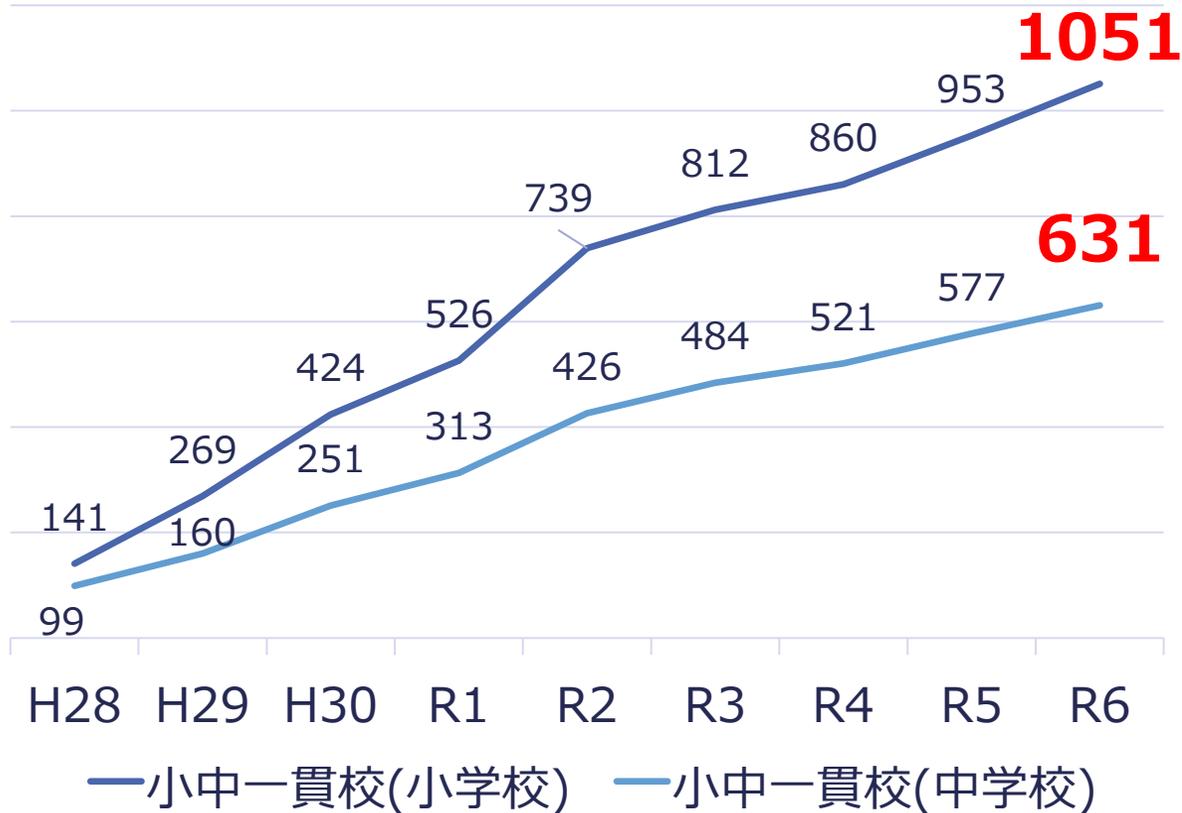
# 令和9年度～須走中学校区(施設一体型) 小中一貫教育制度による変化

<p>制度上 変えないと いけないこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>目指す子供像を共有する</b></li> <li>・ <b>9年間を見通した教育内容を編成する</b></li> <li>・ 学校管理規則に小中一貫校に関して追記する</li> </ul>
<p>法律上変わらないこと</p>	<p>教職員の組織 ※2つの学校の組織として扱う</p>
<p>変わらない 予定のこと</p>	<p>部活動、登下校の方法、通学区等</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度上は校長の兼務可能</li> <li>・ 制服や校舎のつくりなど、法制度上 問題がない内容は変えても変えなくてもよい</li> </ul>

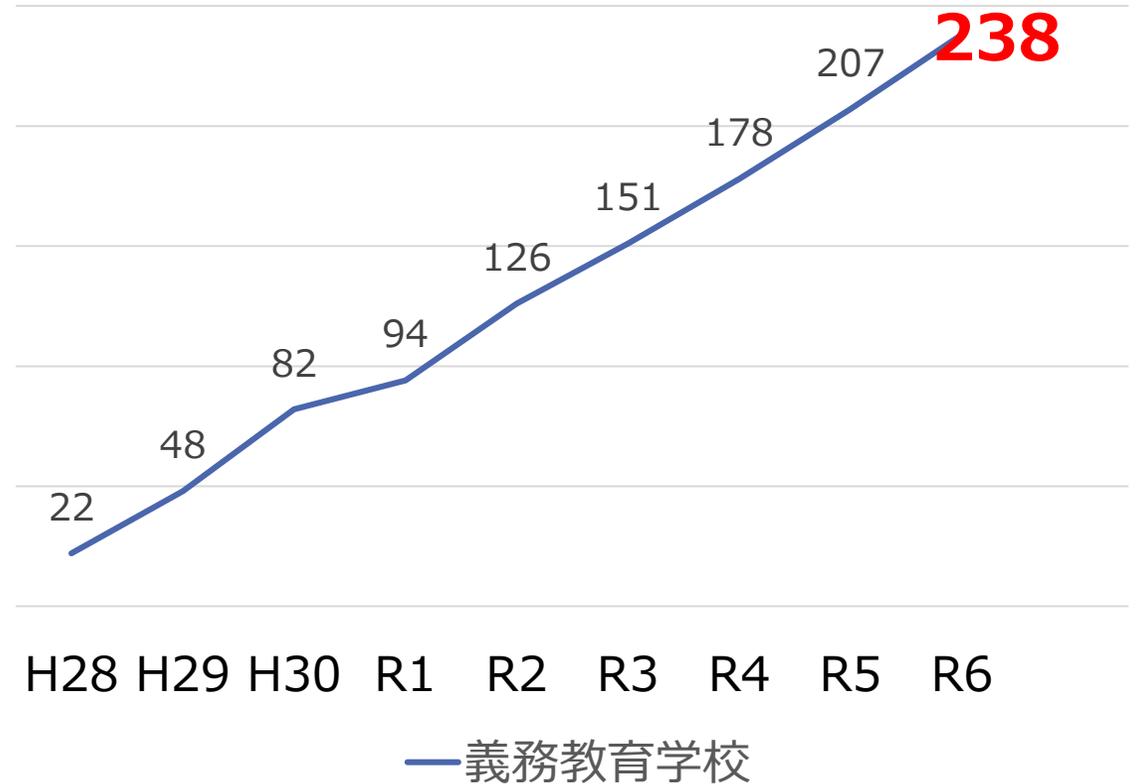
☆ **一貫校化は「枠組み」＝「中身」を詰めるためのスタート。**

# 全国における小中一貫教育の導入状況

## 一貫型小・中学校の校数の推移



## 義務教育学校の校数の推移



「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議 参考資料  
 (文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室)

# 県内の一貫教育の導入状況

調査対象：自治体HP等で公開されている情報によるもの

静岡市  
「静岡型小中一貫教育」  
として小中学校117校が  
43グループで実践

川根本町  
三ツ星学園  
光の森学園

沼津市  
全校実施

熱海市  
泉小中学校

浜松市  
浜松中部学園、庄内学園、  
引佐北部小中学校

富士市  
全校実施

伊東市  
宇佐美小中学校

湖西市  
答申により統  
廃合または一  
貫校で検案中

藤枝市  
全校実施

伊豆市立  
土肥小中一貫校

磐田市  
全校実施

島田市  
教育方針で  
の明文化

東伊豆町  
熱川地区設置検討

袋井市  
全校実施

掛川市  
全校実施

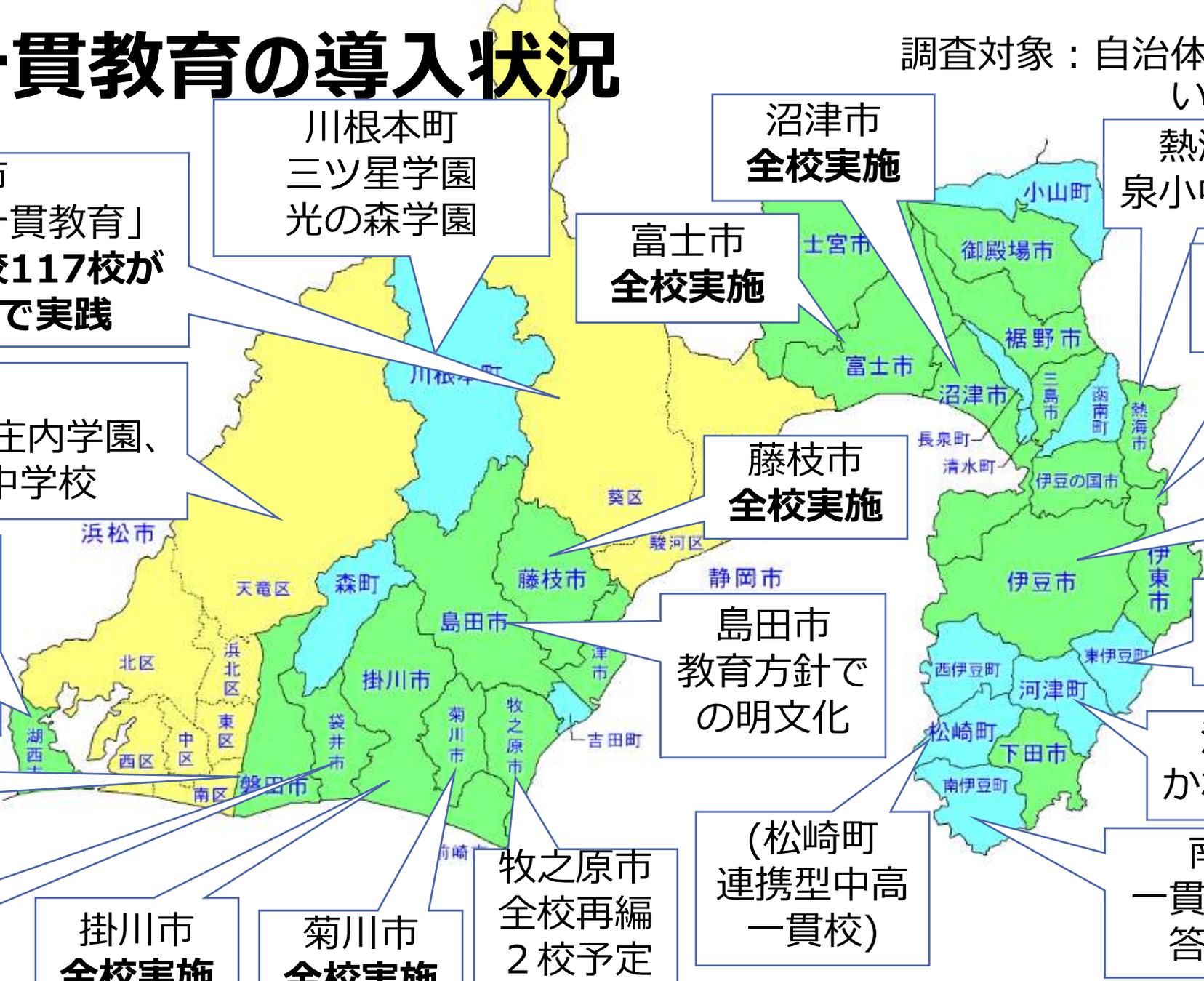
菊川市  
全校実施

牧之原市  
全校再編  
2校予定

(松崎町  
連携型中高  
一貫校)

河津町  
かわち学園

南伊豆町  
一貫教育実施の  
答申発出済



# 小中一貫教育の導入の歴史①

2000(H12)

広島県呉市が全国初の小中一貫教育を導入

(3小学校・1中学校 文科省研究開発学校)

2003(H15)

構造改革特別区域研究開発学校制度 創設

→2004(H16)年度 東京都品川区、2006(H18)年度 東京都三鷹市  
特区の取組開始 徐々に全国に広がる

2008(H20)

教育課程特例校制度 創設

→小中一貫教育導入のハードルが大きく引き下げられる

導入のねらい

- ・学力と社会性の育成
- ・中1ギャップの解消
- ・自尊感情の向上

## 小中一貫教育の導入の歴史②

10数年以上の蓄積……顕著な実績が明らかに  
各自治体から取組の一層の高度化のために  
正式な学校制度として法制化すべきとの要望

2015(H17)

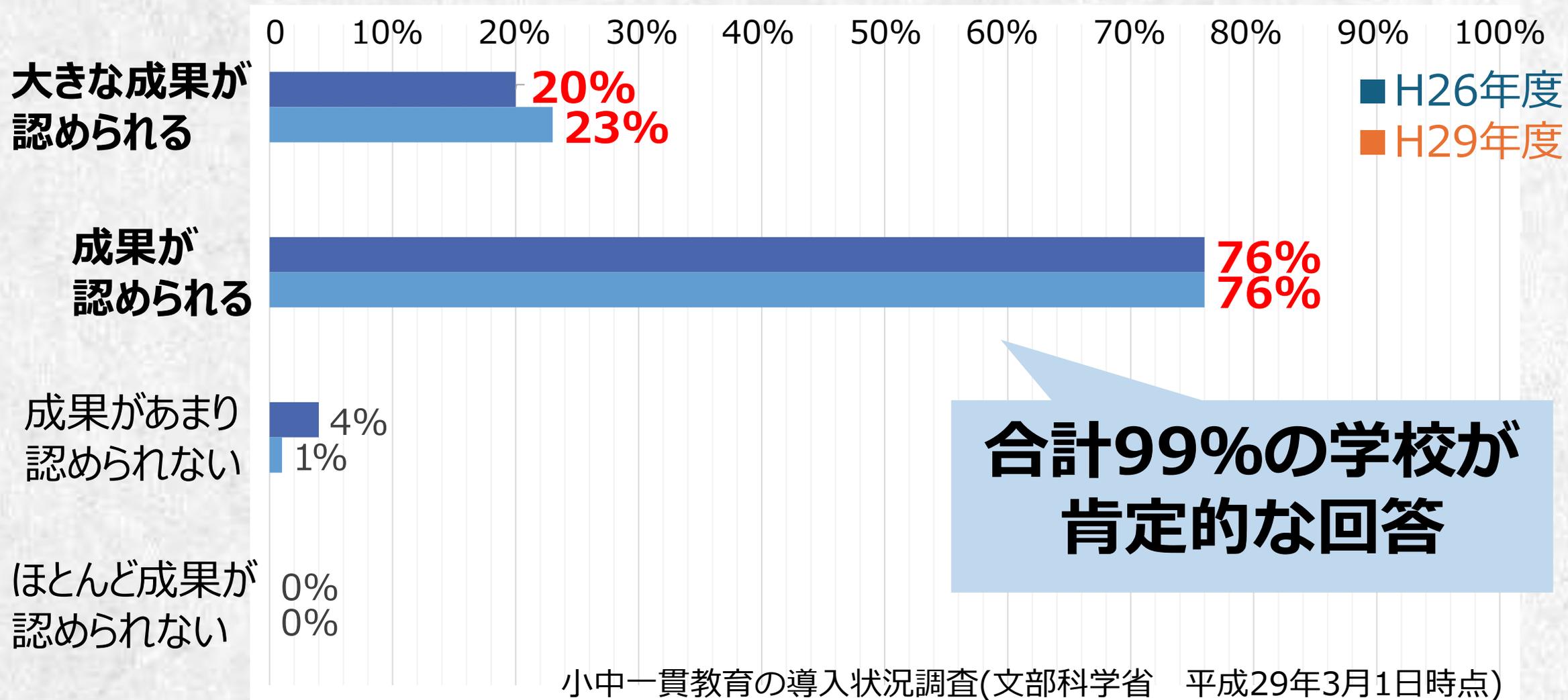
6月通常国会 改正学校教育法 成立

9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の  
種類である「義務教育学校」の設置が可能に

2016 (H28)年

4月1日 改正教育基本法 施行 ▶ **法制化により全国的な広がりへ**

# 小中一貫教育の導入の歴史③



# 小中一貫教育の導入の歴史③

## 【学習面】

- ・**勉強が好き**と答える児童生徒が増えた（71%）
- ・全国学力・学習状況調査の**結果が向上**した（61%）

## 【生徒指導面】

- ・中学校への進学に**不安を覚える児童が減少**した（96%）
- ・上級生が下級生の**手本になろうとする意識**が高まった（94%）

## 【教職員の協働】

- ・小・中学校**共通で実践する**取組が増えた（98%）
- ・教員の**教科指導力の向上**につながった（87%）

※H29調査において、公立学校で、「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合

小中一貫教育の導入状況調査(文部科学省 平成29年3月1日時点)

# 小山町内における一貫教育に向けた流れ

令和4年度 北郷中学校区 小中一貫教育指定校

令和7年1月21日 小山町総合教育会議

……町内の小中学校を存続させるため小中一貫教育の方向性を確認

令和7年3月議会 ……小中一貫教育について説明

令和7年 5月21日 須走中学校区 第2回 地域説明会

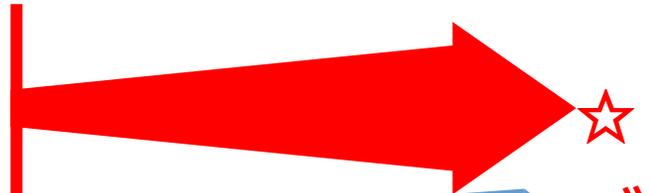
令和7年12月17日 北郷中学校区 地域説明会

令和7年12月18日 小山中学校区 地域説明会

令和8年 3月 6日 須走中学校区 第2回 地域説明会

令和9年度 町内全ての小中学校にて 小中一貫教育スタート

# 須走小中一貫校ロードマップ



☆  
ゴ  
ー  
ル  
で  
は  
な  
く  
ス  
タ  
ー  
ト



# 小中一貫教育がねらう教育的効果

キーワード：「つながる」

- ①地域に学校を残す
- ②教育の質の安定と向上

# 児童生徒数の減少がどのような問題を生むか

- 少子化により児童生徒数が減少する
  - 児童生徒数の減少により教員数が減少する
- 教科担任制が組めない
- 専門の教員配置が難しい
- 部活動が維持できない
- 行事や委員会活動が成立しにくい

# ねらう教育的効果① 地域に学校を残す



## 【連携の具体例】

- 技能教科や理科など、中学校の専門の先生が小学校に行って授業をする（乗り入れ授業）
- 行事や委員会活動等を小中合同で行う（小小・中中・地域連携も含む）
- 様々な学年との関わりをもつことで出会いや異年齢間の学びを作り出す

→地域に学校を残すための現実的な仕組みづくり

# ねらう教育的効果②教育の質の安定と向上

【タテ：9年間の育ちを意識する】

◆生活面      ◆学習面

【ヨコ：連携の輪を広げる】

◆教員・学校連携      ◆地域連携

# 「中1でリセットされること」の問題点

それまで小学校のリーダーとして活躍していた6年生が、中学校に入ったとたんに、様々な変化によって十分に力を発揮できない状況が生まれやすいという指摘がある。

- 学校生活のルールや指導の違いへの不安
- 宿題や授業など、学習のルールや指導の違いへの不安
- 新入生となったことで活躍の機会が減少しやすい

**★適切な情報交換と、課題に向き合い**

**安心して登校できる仕組みづくりが大切**

**※令和8年度～日課表の統一や教育の計画改革スタート**

# 【タテの視点】による指導の質の向上の例

中学校では…

生活態度や学習姿勢を**小学生の手本**となるよう、生徒に上級生としてのふるまいを指導していこう。

数学の空間図形でつまづく生徒が目立つ。  
小学校で図形の概念や性質を丁寧に指導することが重要そうだ。

小学校では…

中学生のふるまいを**手本として意識**できるよう、子どもたちに折に触れて問いかけていこう。

算数の三角形と四角形は、様々な図形の学習の基礎となる。具体物を用いて図形の感覚を養えるようにしよう。

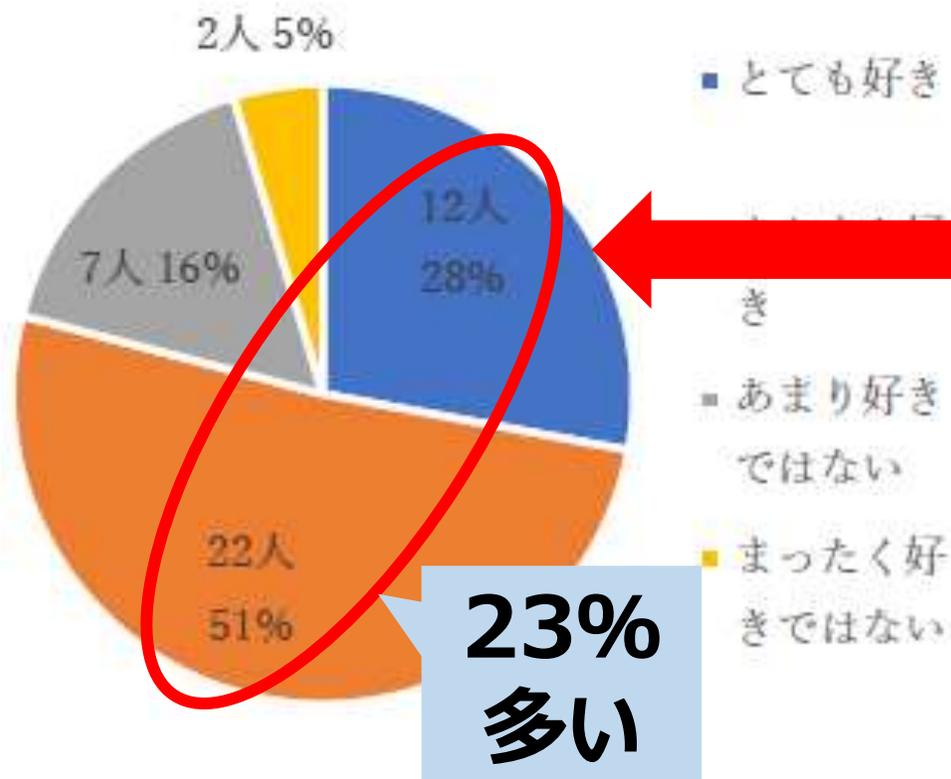
## 9年間を見通したカリキュラムの作成

# ◎ 乗り入れ授業による効果 (北郷中・理科教諭→北郷小5・6年生へ指導)

中学の授業を受けている中で、「小学校で習った!」と思ったことが「ある」生徒

×

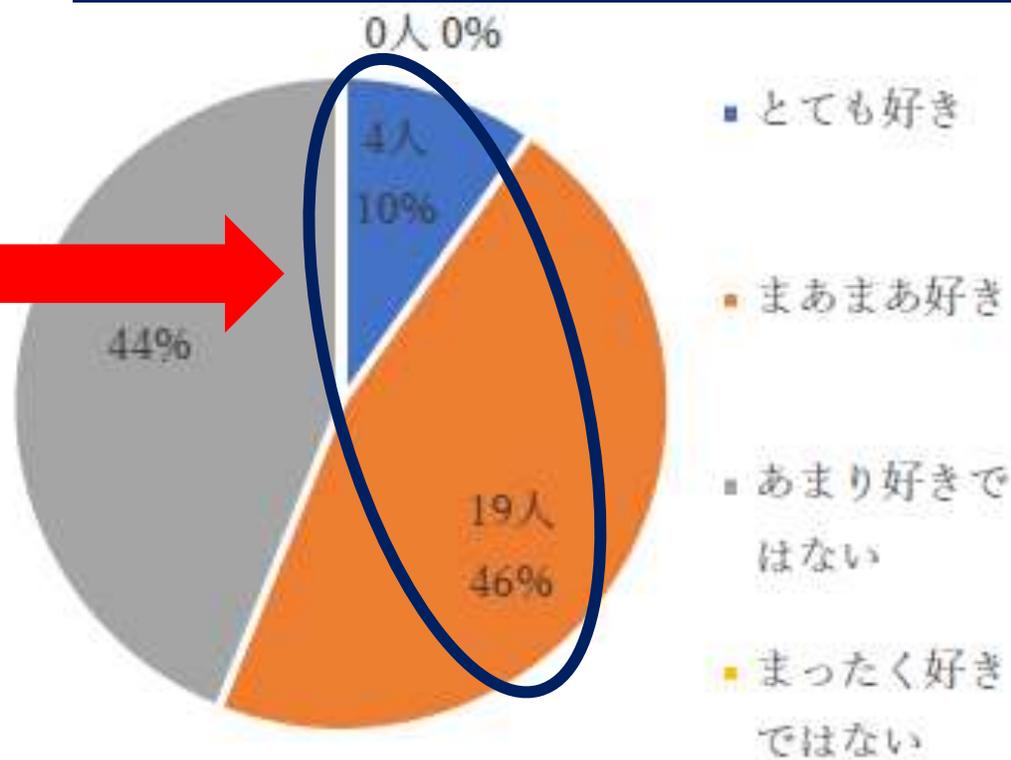
「理科が好き」と答えた生徒



中学の授業を受けている中で、「小学校で習った!」と思ったことが「ない」生徒

×

「理科が好き」と答えた生徒



## ◎ 乗り入れ授業による効果 (北郷中・理科教諭→北郷小5・6年生へ指導)

### 【児童からの声】

Q 中学校から先生が来ていることでよかったことがあったら教えてください。

- A
- ・ 理科の授業が分かりやすい。
  - ・ 中学校のことを教えてくれた。
  - ・ 理科の知識が多いことで、担任の先生の授業では、教わらないことを教えてくれるので、来てくれてよかったです。
  - ・ 中学校で習うことを簡単に教えてくれる。

**教科に対する興味・関心を向上させ、  
学びを広く深いものに**

# 一貫教育は連携の「枠組み」→「なかみ」が大切

<小中一貫教育における取組：先行事例>

◆学校運営協議会で「育てたいこどもの姿」を共有し、  
地域の思いや願いを新たな学校づくりに生かす

◆生活や学習のルールを小中で共有する

◆一貫教育の軸となる新教科等を創設する

◆小学校高学年における教科担任制、乗り入れ授業

◆小中合同の授業や行事、職員研修、会議

◆小中の教員が相互に授業参観を行う など

目指す子供像の共有、  
9年間を見通した教育  
計画は一貫教育の要件  
です！

# ねらう教育的効果②教育の質の向上【ヨコの視点】

成美小  
明倫小  
足柄小

宿泊行事



小規模校の良さを生かしつつ、  
競い合いや出合いを創出する

# ねらう教育的効果②教育の質の向上【ヨコ】

小山町立中学校  
3校合同交流会

## 学校の枠を超え レク企画楽しむ

小山、北郷、須走中が合同交流会

デカパンリレーなど考案



「デカパンリレー」を楽しむ生徒  
小山町の総合体育館写真の一部を加工しています

小山町の小山、北郷、須走の3中学校生徒会はこのほど、合同交流会を同町の総合体育館で初開催した。町内の全中学生約410人が集い、大人気で活動することの楽しさを味わった。

町内では少子化で各校のクラス数が少なく、生徒は中学校を通じて級友が限定されがち。合同交流会は学校の枠を超えた活動により、高校進学も見据えたコミュニケーション能力の向上などを目的とした。企画や運営委員は各校の生徒が混じり合って構成し、準備を進めてきた。

当日は「風船バレー」など各校が考案したユニークな企画を楽しんだ。須走中は学校対抗の「デカパンリレー」を提案。大きなポリ袋に2人が入り、息を合わせて進んで次走者にバトンタッチした。応援する生徒も拍手で盛り上げ、競技後はたえ合った。

(御殿場支局・奥谷博広)

小規模校の良さ  
を生かしつつ、  
競い合いや  
出合いを  
創出する

静岡新聞

(令和7年12月2日)

## ねらう教育的効果②教育の質の向上【ヨコ】

小学校 朝運動  
「アサフィット」



**町内小学校の日課の共有**  
**地域の教育的資源の活用**

# 参考文献

- 文部科学省(2016).「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き」  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/08/29/1369749\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/08/29/1369749_1.pdf)(参照2025-11-10).
- 文部科学省(2015).「小中一貫教育等についての実態調査の結果」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/ikkan/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/04/08/1369584\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/__icsFiles/afieldfile/2016/04/08/1369584_01.pdf)(参照2025-12-01).
- 文部科学省(2017).「小中一貫教育の導入状況調査の結果」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/ikkan/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/09/08/1395183\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/__icsFiles/afieldfile/2017/09/08/1395183_01.pdf)(参照2025-11-24)
- 文部科学省（2024）「『令和の日本型学校教育』を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議 参考資料」[https://www.mext.go.jp/content/20250305-mxt\\_syokyo02-000040667-66.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250305-mxt_syokyo02-000040667-66.pdf) (参照2025-12-2).
- 初等中等教育分科会小中一貫教育特別部会(2014).「小中一貫教育関連基礎資料 資料7」.文部科学省.[https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwithrD55KuRAxVG3TQHHfLDPVQQFnoECBUQAQ&url=https%3A%2F%2Fwww.mext.go.jp%2Fb\\_menu%2Fshingi%2Fchukyo%2Fchukyo3%2F051%2Fsiryo%2F\\_\\_icsFiles%2Fafieldfile%2F2014%2F09%2F11%2F1351916\\_7.pdf&usg=AOvVaw21J58YF1WoW2ow2EYfUx3C&opi=89978449](https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwithrD55KuRAxVG3TQHHfLDPVQQFnoECBUQAQ&url=https%3A%2F%2Fwww.mext.go.jp%2Fb_menu%2Fshingi%2Fchukyo%2Fchukyo3%2F051%2Fsiryo%2F__icsFiles%2Fafieldfile%2F2014%2F09%2F11%2F1351916_7.pdf&usg=AOvVaw21J58YF1WoW2ow2EYfUx3C&opi=89978449)(参照2025-11-20)
- 国立教育施策研究所(2019).「小中一貫教育の成果と課題に関する調査研究」  
[https://www.nier.go.jp/05\\_kenkyu\\_seika/pdf\\_seika/h27/1-1\\_all.pdf](https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h27/1-1_all.pdf)(参照2025-12-01).

# 参考文献

- 国立教育施策研究所(2019)。「地方教育行政の多様性・専門性に関する研究 報告書 3 市町村の教育施策としての小中一貫教育に関する研究」。  
<https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwj55rep5KuRAxVCp1YBHfVfNHwQFnoECBsQAQ&url=https%3A%2F%2Fnier.repo.nii.ac.jp%2Frecord%2F1793%2Ffiles%2F2019004.pdf&usg=AOvVaw3L3nPvgYRJPrcEiHsYkvUV&opi=89978449>(参照2025-11-10)
- 早田清宏「小中一貫教育校の制度概要」.国立教育施策研究所。  
<https://www.nier.go.jp/shisetsu/event/2020/pdf/kouenkai.pdf>,(参照2025-11-28).
- 生徒指導・進路指導研究センター(2015)。「生徒指導リーフ『中1ギャップの真実』Leaf15」.国立教育施策研究所。  
<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf15.pdf>(参照2025-10-25)
- 内閣府(2021)「政策課題分析シリーズ20 新しい働き方と地方移住に関する分析—コロナ禍における働き方への意識の変化をもとに—」<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2021/07seisakukadai20-0.pdf>(参照2025-11-10)
- 鈴木仁之.小中一貫教育の効果を高める「コーディネーター」の役割.静岡大学学術レポジトリ.2015,p2-7
- 藤江康彦.小中一貫教育をデザインする カリキュラム・マネジメント52の疑問.東洋館出版社.2019,176p
- 橋本英樹.小中連携教科担任制のための研究.令和7年度小山町研究奨励賞資料.2025,p12



# 一貫校化に向けて ここまでの動き

---

# 前回5/21（水）第1回地域説明会以後 須走小中一貫校化にむけた ここまでの日程

令和7年 6月 9日(月) 須走小中学校一貫校化に向けた準備打合わせ①

令和7年 6月17日(火) 須走小中学校一貫校化に向けた準備打合わせ②

**令和7年 7月22日(火) 第1回須走小中一貫校設立検討会議**

令和7年 9月 3日(水) 一貫校視察【長野県信濃町立信濃小中学校】

令和7年12月8日(月)～9日(火) 一貫校視察【大阪府堺市立さつき野学園】

**令和7年12月24日(水) 第2回須走小中一貫校設立検討会議**

令和8年 2月23日(月)～24日(火) 一貫校視察【岡山県高梁市立有漢学園】

令和8年 3月 6日(金) 第2回須走小・中学校一貫校化に向けた地域説明会

設立検討会議  
専門部会

# 議題須走小中一貫校設立検討会議 組織図

## 須走小中一貫校 設立検討会議

- 方針・方向性の決定
- 各部会での検討結果の確認
- 施設設備の内容確認

事務局

### 総務部会

- 【主な検討内容】
- ・校名・校歌・校章等
  - ・開校準備(式典等)
  - ・関係団体との渉外
  - ・育成したい子供の姿

### 学校運営部会

- 【主な検討内容】
- ・制服・体育着等  
(主に業者選定)
  - ・教育課程編成、  
教育目標、学校行事、  
校種間交流
  - ・特色ある教育活動

#### 保護者・教職員の 意見反映

- ・地域の目指す教育
- ・特色ある教育活動

### PTA部会

- 【主な検討内容】
- ・小中PTAの統合、  
規約、役員体制等
  - ・学校運営協議会
  - ・地域行事への参加
  - ・制服・体育着等  
(主にデザイン等)

#### 児童生徒の意見反映

- ・アンケート等の実施

### 施設関係部会

- 【主な検討内容】
- ・学校施設の改修
  - ・グラウンド、体育館の  
利用方法等

## 令和7年度小山町立須走小中一貫校化専門部会（総務部会）報告

## 1 日 時

第1回 令和7年9月29日(月) 午後1時から4時

第2回 令和7年11月12日(水) 午後1時から4時

## 2 会 場

小山町立須走小学校 会議室

## 3 参加者

大庭 和広 (教育次長)	井上 幹夫 (学校教育専門監)
石田 善正 (須走小校長)	後藤 佳江 (こども園園長)
坂本 竹人 (須走支所長)	渡邊 悦郎 (須走地区区長会長)
石橋 良弘 (富士浅間神社宮司)	杉中 茂 (富士学校総務部)
鈴木 寿奈 (須走中教務主任)	長田 友紀 (須走中事務主査)

## 4 協議事項

## (1) 通称名 小山町立須走小中一貫校とする。

- ・通称名（法的な「校名」とは別の名前 一般に知らしめる名前）は定着しやすい名前としたい。
- ・「須走小中学校」よりも「須走小中一貫校」の方が一貫教育を行っていることを一般に知らしめることができる。
- ・「一貫学校」よりも「一貫校」と呼ぶことが多いと予想される。

## (2) 校章 小学校と中学校の校章を現状のまま使用する。

- ・中央に地域のシンボル「富士山」をかたどり、周りに雪の結晶をあしらった。富士山のように気高くおおらかに、雪のように清らかにとの願いがデザイン化されている。
- ・小学校、中学校共に昭和25年に校章が制定された。2つのデザインは似ており、開校の段階で「小中一貫校としての校章」を全く新しいデザインで作成する必要はないと考えている。



小学校記念誌



小学校記念門



中学校昇降口



中学校制服

## (3) 学年制度 6・3制とする。

- ・「小学部」「中学部」とし、中学校1年生を「7年生」、中学校2年生を「8年生」、中学校3年生を「9年生」と呼ぶ。
- ・既存の施設をそのまま使用するため、グラウンド、体育館、特別教室がそれぞれ二つあることをメリットと考える。

#### (4) 儀式的行事

儀式名	実施日	参加者等
開校式	始業式の前	2～9年生 ※(5)で提案
始業式	入学式の前	2～9年生
入学式	小学校体育館	1～9年生 1年生保護者
中学部開始式	入学式の翌日等	7年生学年集会形式で実施 7年生保護者（希望者のみ） 来賓は呼ばない
↓	↓	↓
小学部修了式	卒業式の前日等	6年生学年集会形式で実施 6年生保護者（希望者のみ） 来賓は呼ばない
修了式	卒業式の前	1～8年生
卒業式	中学校体育館	1～9年生 9年生保護者

- ・ 儀式的行事を合同で実施することは、子供たちにとって、9年間を通じた学びを強く意識する機会になる。
- ・ 入学式と卒業式における児童生徒（在校生）の参加体制は、来年度の準備が進む中で無理のないように適宜変更していく。

#### (5) 開校式 令和9年4月に実施する。

- ・ 4月に開校式を実施するのは負担がかかるが、子供が開校を強く意識できるように、4月に実施する。
- ・ 開校式は、校長挨拶、来賓祝辞、児童生徒代表の言葉を中心とした簡素なものとする。

#### (6) 校旗 現在の校旗を小学部、中学部でそれぞれ使用する。

- ・ 入学式、卒業式は、小学部と中学部の校旗を並べて置く。
- ・ 小学部修了式は、小学部の校旗を使用する。中学部開始式は、中学部の校旗を使用する。

#### (7) 校歌 現在の校歌を小学部、中学部でそれぞれ使用する。

- ・ 入学式で小学部の校歌、卒業式で中学部の校歌を歌う。
- ・ 両方歌ったり、片方だけを歌ったり、状況によって考える。
- ・ 今後、施設設備面等で動きがあった時に合わせて新校歌等を制定することを考えてもよい。

### 5 その他

新しいグランドデザインは、小学部、中学部で一つにまとめる。教育委員会の方針等を受け、令和8年度末までに小学校長と中学校長で作成する。

## 須走小中一貫校設立検討会議 学校運営部 専門部会 報告

### 1 専門部会の開催日

第1回 令和7年10月8日（水） 参加10名

第2回 令和7年11月13日（木） 参加8名

※第2回は、制服検討に関するプレゼンテーションを実施。

業者選定プレゼンテーションには、専門部委員以外に小山町教育委員会から大庭次長、井上専門監、保護者代表として須走中 菅PTA会長、教職員代表として須走中 土屋教頭が参加。

### 2 これまでの検討内容

#### (1) 第1回専門部会

##### ① 小学校、中学校の日課について

- ・現状における週時程、日課等の情報共有

##### ② 令和9年度に向けた教育課程編成について

- ・共同実施する行事や週時程、日課等に関する検討  
※町内統一の週時程や日課を令和8年度から採用予定

##### ③ 制服の変更についての検討

- ・詰襟、セーラー服からブレザー型への変更  
→ジェンダー問題、気候（酷暑、寒冷）に対する対応などを考え、ブレザー型を採用  
→制服製造業者の選定（11月13日（木）に実施）

#### (2) 第2回専門部会（制服業者選定に関するプレゼンテーション）

##### ① 制服製造業者決定に関する詳細は別紙にて

- ・参加業者 株式会社明石スクールユニフォーム  
静岡菅公学生服株式会社  
株式会社東静衣料

- ・制服製造業者 静岡菅公学生服株式会社 に決定

##### ② 令和8年度教育課程に関する検討

- ・町内統一日課に関する情報提供

### 3 今後の検討内容

#### (1) 行事予定について

須走小学校・中学校における令和8年度教育課程編成と共に、令和9年度に向けた行事予定等に関する検討を行う。小・中学校の統一された日課や行事の実施などを踏

まえ、教職員からも意見をもらう。

体育大会については、令和8年度はこれまで通りの開催方法を取り、来年度中に一貫校化後の実施方法等の方針を決定する。

## (2) 制服の変更について

スクールカラーの決定を踏まえ、制服製造業者からデザイン案の提案を受ける。その案を元に、児童生徒及び保護者からの意見、学校側の考えなどを考慮し、年度内に最終決定を行う。

制服の検討と同時に、ジャージについてもデザイン変更を行う予定。



須走中学校の『スクールカラー』を考えよう  
今後、制服やジャージにその色を反映させたいと思います  
皆さんが考える須走中学校は『何色』ですか？  
皆さんの投票結果をもとに先生方で協議した結果、

空色

となりました。

空色は、富士山を包み込む広い空を思わせる色であり、  
澄んだ心、限らない可能性、未来へ向かって広がる学び  
を象徴しています。  
一人一人が校訓「至誠」を抱き、誠実な心を大切にしながら  
伸びやかに成長し、高い目標に向かって挑戦していく姿  
を表しています。

## 【制服デザイン案】



## 【エンブレム デザイン案】



- 生徒から応募されたデザインを元に作成  
応募作品の共通項目  
・富士山 ・須走のS

- 富士山の横の2羽の鳥

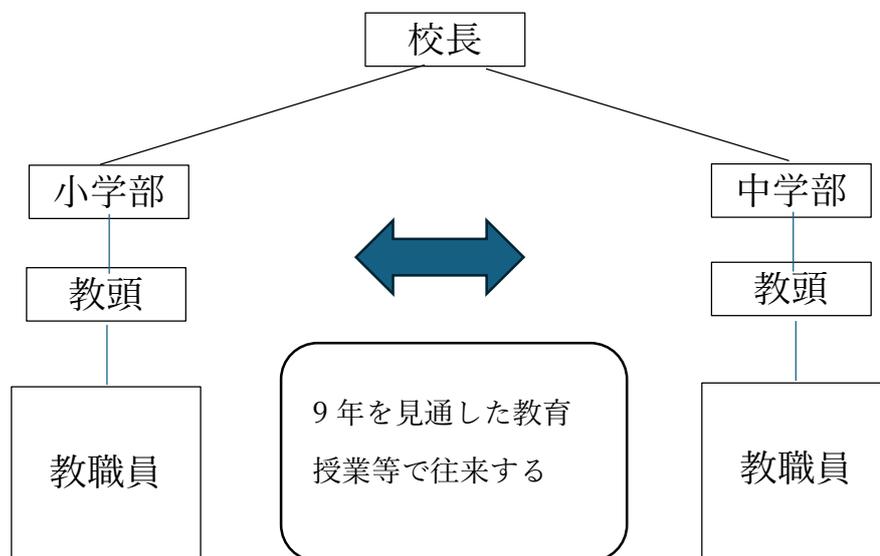
須走は、日本野鳥の会の第1回探鳥会（昭和9年）の開催地であったことから、「日本野鳥の会 誕生の地」と言われている。自然環境豊かな須走の地と生徒が未来へ羽ばたく姿をイメージした鳥をデザインとして加えた。

## 小中一貫校化 PTA 専門部会

令和 7 年 11 月 28 日(金)

於：須走小学校図書館

### 1 学校組織体制（校舎も今まで通り）



※今後完全一体化するかは不明。完全一体化をする場合は校舎建設等もあるので一貫校化してすぐには行われなないと思われる。

### 2 現在の PTA 組織

#### 【小学校】

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| (1) 会 長    | 1 名                   |
| (2) 副会長    | 4 名（うち職員 1 名）         |
| (3) 会計監査   | 2 名（前年度 PTA 会長・前年度会計） |
| (4) 会計事務   | 1 名（県事務）              |
| (5) 理 事    | 若干名（各部長）              |
| (6) 事務局    | 1 名（教務）               |
| (7) 事務局補佐  | 1 名（職員）               |
| (8) 環境保体部  |                       |
| (9) 学年部    |                       |
| (10) 母親部   |                       |
| (11) 広報研修部 |                       |

### 【中学校】

- (1) 会 長            1名
- (2) 副会長           3名 (男1名・女1名・教員1名)
- (3) 書 記            2名 (P1名・教員1名)
- (4) 会 計            2名 (P1名・学校1名)
- (5) 理 事            若干名 (各専門部は理事が兼ねる)
- (6) 会計監査委員   2名
- (7) 環境保体部 (兼学年部)
- (8) 文化研修部 (兼学年部)

### 3 協議事項

※専門部会ではいくつか案を出し、その中で次のような意見がでた。

○小中一貫校になったときの PTA 組織をどうするか

- ・基本的には一つにまとめていきたいが、運動会等の行事によっては負担が増えてしまうので、行事をまとめないのであれば P T A 組織をまとめるのが難しい。

○今後検討していくこと (学校運営部会の話し合いを受け、一つにまとめる場合)

- ・規約の見直し。
- ・編制
- ・何年役にするか。
- ・会計について

1 会議日 令和7年11月7日（金）

参加者 6名（学校職員3名 教育委員会1名 地域住民2名）

2 施設視察（小学校、中学校）

○見学前に施設利用方針概略（小山町教育委員会の方針）

- ・現在の施設を利用する。新校舎は作らない。
- ・校長は1人、教頭2人、各学校の職員室を活用する。実質、2つの校舎に各組織があり、校長がそれを束ねる形となるので、そのことを踏まえて施設を考えていく。
- ・教育委員会として、小中学校の連絡通路3案を考えていて、視察の中で各案のイメージを持って見学してほしい。

○視察中に出た意見

- ・A案では、移動の際上がったり、下がったり大変ではないか。子供の移動を考えてバリアフリー（スロープ）にしてほしい。
- ・お金がかかっても子供たちの移動しやすさを考えた通路にしてほしい。
- ・ランチルームの窓側に壁（パーテーション）等で通路を作ってはどうか。基礎工事等をする必要もなく、今後児童・生徒数も減少していくのでスペース的にも大丈夫ではないか。ただし、ランチルームが暗くならないようにしないといけない。

→新たなD案とする

3 協議

一貫校化するにあたり施設面で整えること

○児童・生徒・教師の移動通路

- ・ランチルーム内に通路を作るという新たなD案が上がったので、費用的にどのくらいかかるか検討する。（教育委員会）
- ・ランチルーム内に通路を作るにあたり衛生環境面から、どのような構造ならば大丈夫かも含めて検討する。（教育委員会）
- ・施設の安全面をしっかりと考え生徒の移動を簡素化する。そのための費用は惜しまないでほしい。

## ○職員が一同に会して会議・研修できる部屋

- ・中学校のコンピュータ室や小学校の視聴覚室を整備するとよいのではないか。

## ○防犯設備の共通化

- ・危機管理の観点からも、将来的には防犯システムの共通のものにしていく必要がある。  
とりわけ放送設備は、緊急に連絡することもあるので共通化したい。
- ・防犯設備、防火設備にはより安全性を考え、視認性を重視して誰でも操作できるように最新の設備を整えたい。

## ○防火設備の共通化

- ・昨年、ランチルーム隣の格技室で火災警報器が発報した。その際、ランチルームは小学校管理、格技室は中学校管理となっているので、ランチルームで昼食をしていた中学生は全く火災警報器が発報したことに気づかず、危ないことが起こっていた。一貫校化するにあたり、最優先は防火施設の共通化ではないかと思う。

## ○校長室の配置について

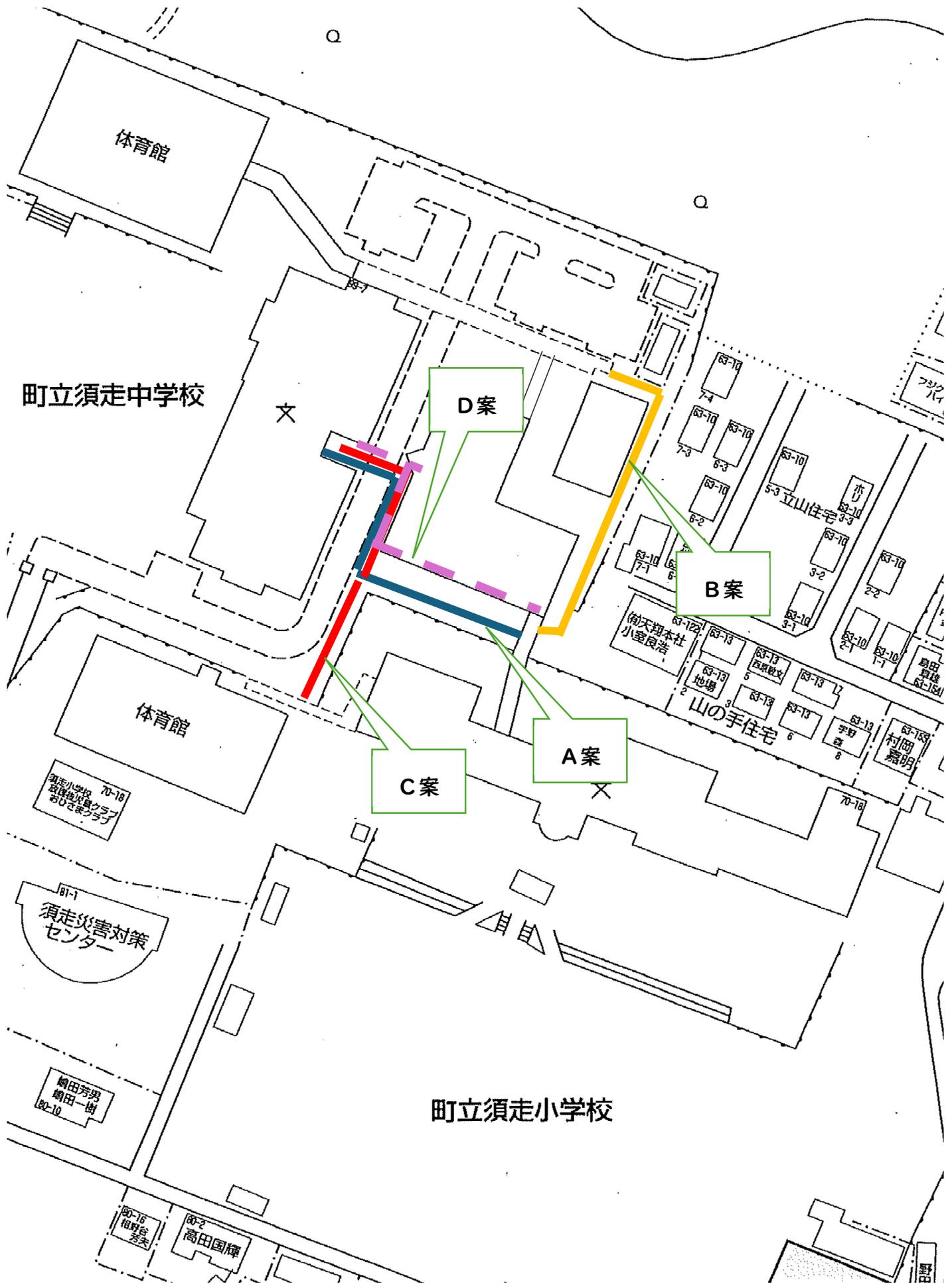
- ・校長が一人になるからには、校長室は両方の学校の状況を見ることができる位置。
- ・防犯のため、校長室を移動通路の見える場所にする。
- ・校長室だけでなく生徒の行き来が確認できるような校長室・職員室の配置。

## ○連絡方法

- ・内線電話の拡大（全教室と連絡ができる）と外線電話の本数はどうするか。
- ・2つの職員室をつなぐにはどうするか。大きなモニターを両職員室に用意し、常時つないでおくなど ICT を活用すれば連携が取れるか（?）。
- ・小学校・中学校の情報を交換できる部屋、できることならば、そうした部屋を設けるのではなく、常に子供のことを話せる1つの職員室がいい。

## ○その他

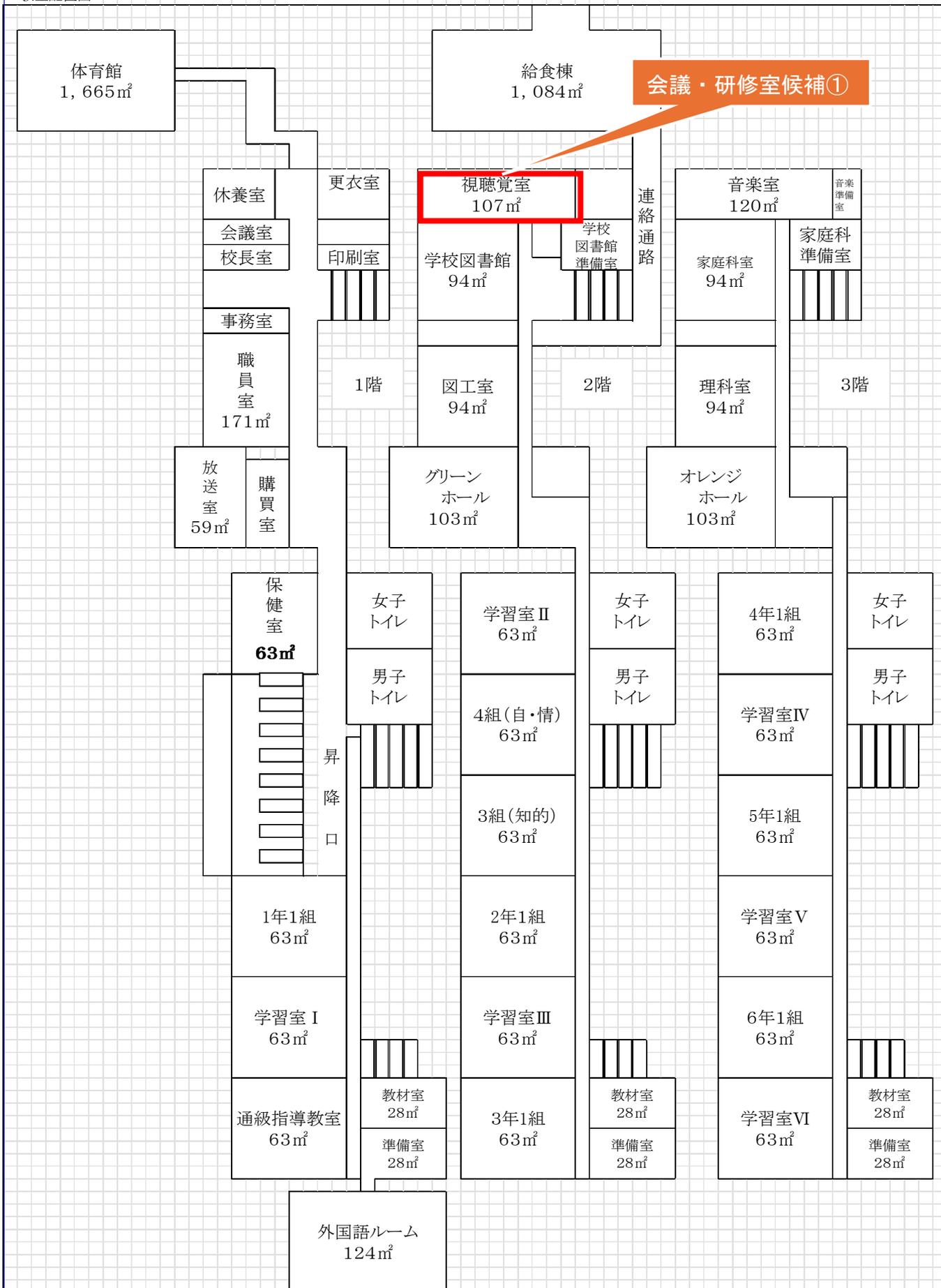
- ・校舎は2つ必要なく、片方の校舎で全員入ることができるのではないか。
- ・施設と共に日課もあわせる必要がある。例えば、給食の時、小と中で時間がずれるとうるさくなることも想定される。
- ・新しい学校の看板、案内板の設置についても検討していく
- ・校内放送（共通化）チャイム

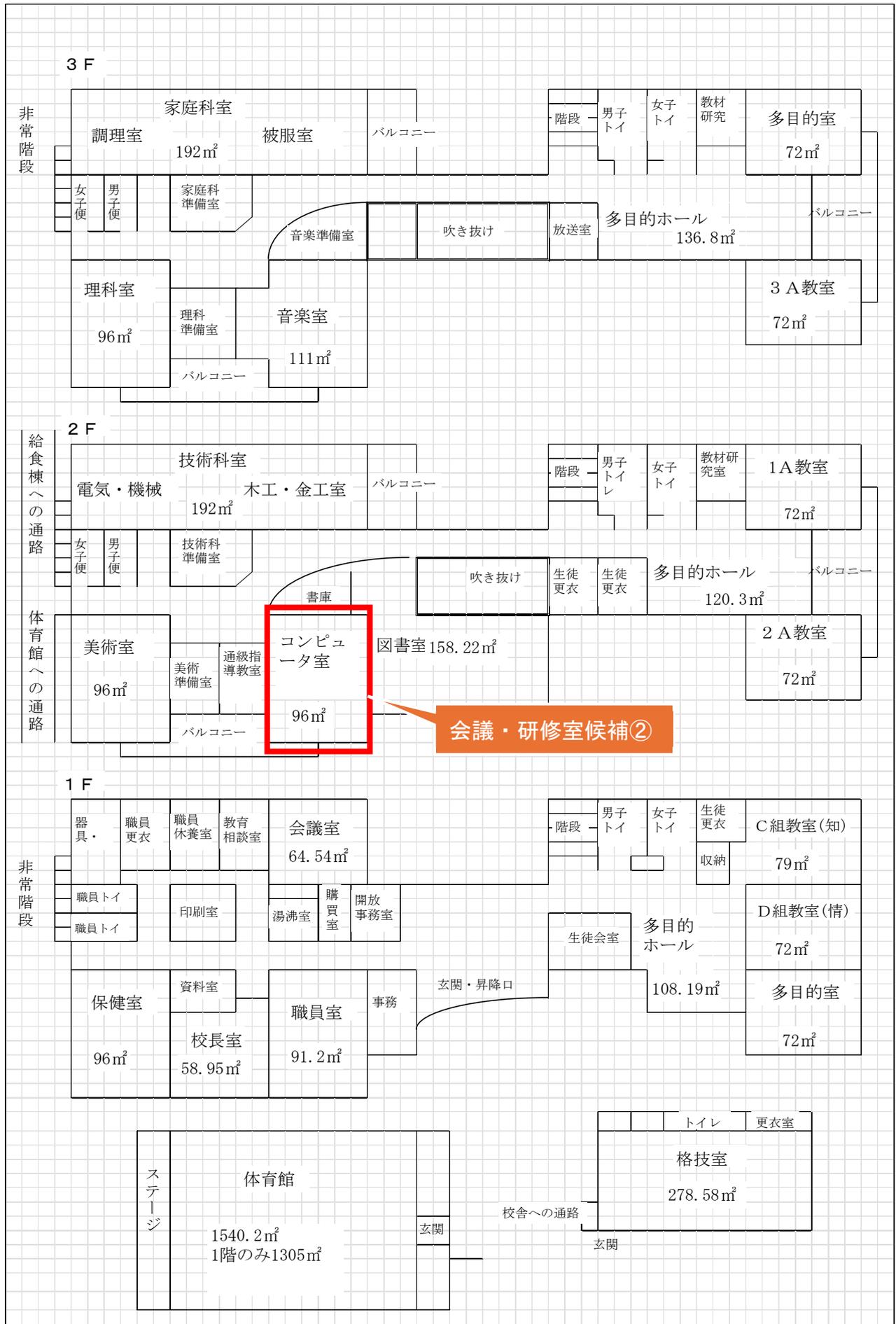


# 教室配置図

小山町立須走小学校

教室配置図





	(仮) 須走小中一貫校	【視察】大阪府堺市立さつき野学園
イメージ		
	1人の校長のもとで、組織上独立した小学校および中学校が義務教育学校に準じるかたちで一貫した教育を施す形態	1人の校長のもとで、1つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態
	校長室1 職員室2 保健室2 事務室2	校長室1 職員室1 保健室1(2) 事務室1
施設面の課題と解決策	<p>○校長室をどこに配置するか要検討 ⇒ 両校の児童生徒の活動が視認できる場所に設置 (部会意見)</p> <p>○各学校に職員室があり、教職員の連携が十分にとれるか心配 ⇒ 大きなモニターを両職員室に設置し、常時テレビ会議システムでつなぐことで連携を図りたい。(部会意見)</p> <p>○校舎間の移動 ⇒ 段差をできるだけなくし、児童生徒が安全に移動することができるような連絡通路を作りたい。(部会意見)</p> <p>○有事の際、危険を知らせる放送や警報の統一、連絡用の校内電話の整備が必要 ⇒ 最優先。視認性を重視した最新の設備を整備 (部会意見)</p>	<p>○校長室、事務室、職員室が横並びに配置 ⇒ 職員間の情報共有も常にできスピード感をもって指示徹底</p> <p>○職員室は1つ。全職員が同じ空間にいて情報共有が容易 ⇒ 「9学年の子供たちを、教職員全員で見る」ことを目標に連帯することができる。</p> <p>○校舎間を移動するための連絡通路(橋)を整備 ⇒ 3面に壁があり、雨天時でも濡れることなく安全に移動。フラットな通路で道幅もあり、すれ違いも容易にできる。</p> <p>○放送、警報設備は統一、防犯警報設備だけは校舎ごと ⇒ 正門には警備員が配置され、要所には防犯カメラが設置 来校者は基本、インタフォンで要件を述べ校内へ入る。</p>